

Shiranuka

No.140

第33回白糠町ロードレース大会



白糠町
2018.4.29

定例会の概要 2P

一般質問 4P

議会の動き 12P

第一回 定例会

平成 30 年第1回定例会は3月6日に開会し、同14日に閉会しました。

初日は町政執行方針、一般質問等を行いました。

2日目は補正予算と条例改正等、3日目は新年度予算等の審査を予算特別委員会に付託しました。

最終日は付託した予算案を可決し、その他条例改正等を行い閉会しました。



返礼品として人気の毛ガニ

るが、リピート率を向上させるような取り組みは考えていないのか。

○新年度予算において、東京での感謝祭的なイベント予算を計上している。

○取り崩しにより現在の基金残高は約2900万円となっているが、今後の財政状況を見ながら積み戻しをしていきたい。

質疑・答弁

条例改正

◆議員報酬及び費用弁償に関する条例の改正

○人事院勧告に伴い、手当を0・1カ月分増額し、年額4・4カ月分としました。

◆町長等の給与に関する条例の改正

○人事院勧告に伴い、手当を0・1カ月分増額し、年額4・4カ月分としました。

◆職員の給与に関する条例の改正

○人事院勧告に伴い、俸給月額を0・15%引き上げる他、手当を0・1カ月分増額し、年額4・4カ月分としました。

◆地域自治振興条例の改正

○東本通1町内会と東本通2町内会の合併により、条文の一部を改正しました。

◆白糠町スポーツ推進助成条例の改正

○従来までの国や北海道等の大会に限らず、基準を満たす民間団体等主催の大会出場についても助成対象とするよう条文を改正しました。

補正予算

◆ふるさと納税で4億円を追加補正

○一般会計補正予算において、現計予算を大きく上回る見込みのふるさと納税に関する予算の他、除雪経費の追加、人事院勧告に伴う人件費の追加等、合計6億2030万8千円を追加し、予算総額を110億5778万2千円と

質疑・答弁

◆ふるさと納税

○秋サケ、毛ガニ等返礼品の価格が高騰しているが、今後どう対応していくのか。

○来年度については詳細に状況を把握しながら対応していきたい。

○他の自治体では首都圏で感謝祭のような事を実施して

新年度予算

◆一般会計

86億2500万円

◆国民健康保険特別会計

10億7488万7千円

◆簡易水道及び飲用水道供給事業特別会計

4302万3千円

◆公共下水道事業特別会計

5億4595万1千円

◆介護保険特別会計

10億106万3千円

◆後期高齢者医療特別会計

1億3832万5千円

◆特別会計小計

28億324万9千円

◆一般・特別会計合計

114億2824万9千円



4月15日に落成式が行われたウレシパチセ

指定管理者の指定

○総合体育館外12の体育施設の指定管理について、株式会社オカモトとの契約が3月31日で満了となることから、新たに平成34年3月末までの契約を締結しました。



指定管理を延長した総合体育館

過疎計画の変更

○ふれあい児童館及び社会福祉センターの改修、除雪機械整備については当初の過疎計画に記載されておらず、過疎対策事業債を借入するには計画を変更しなければならぬため、追加変更しました。

議員表彰

○議会議員として15年以上在職し功労のあった者として、全国町村議会議長会より福地議員が表彰を受けました。

・白糠町西庶路
今田 睦子 氏

人権擁護委員候補者の推薦意見

○平成30年6月30日に任期満了となる人権擁護委員について、町から再任の推薦を受け、適任として認めました。



福地議員



小野 キサ 議員

町営住宅の玄関錠交換の対応は

町 安心・安全のため入居時に交換する

問 町営住宅に入居する場合、前居住者が使用していた玄関錠との交換がないために、「防犯上不安を感じている」との声がある。住人の安心・安全のため居住者異動の都度玄関錠は交換すべきと考えるが以下について伺う。

町 町営住宅入居戸数と年間異動状況。

平成30年3月1日現在町営住宅487戸のうち346戸入居。56戸は次回募集戸数異動は5年間（25～29）で入居74件、退去142件。

問 玄関錠の管理状況と事故・苦情状況。

町 3個の鍵を保有し、入居者に2個を貸与し、住宅管理係で1個保管する。退去時には貸与した鍵とスペアキーはすべて回収する。防犯上の事故・苦情は生じていない。

問 他市町村の状況と本町の公営住宅の交換状況と考える。

町 入居者異動で交換しているところは北海道、釧路市、厚岸町、標茶町。本町は入居者より交換した



町営住宅（写真は橋北団地）

いとの申し出がある場合個人負担で承認する対応をとっていたが近年の入居状況の中で、ひとり親家庭の入居も多くなってきたており更にはDV等による特定入居等もあることから、より安全で安心して入居できるよう本年3月入居予定者より異動の都度玄関錠の交換を実施する。

「ヘルプマーク」の周知方法等は

町 ホームページや広報紙等で周知

問 「ヘルプマーク」は義足や人工関節を使用している方、内部障がいや難病の方、妊娠初期の方など、外見から分かりにくい方が周囲の方に援助や配慮を必要としていることを知らせることで援助など得られやすくなるように作成されたものである。主として都道府県が中心となり市町村の協力を得て全国的な取り組みが展開されている。北海道においては、ヘルプマークとともに、緊急連絡先や必要な支援内容などを記載して携帯するヘルプカードを併せて昨年10月に北海道ヘルプマーク・ヘルプカード配布ガイドラインを策定したが、本町におけるヘルプマークの周知と配布について伺う。

町 周知については、北海道提供の普及啓発用ポスター10枚を福祉センターなど主要施設に掲示するとともに、町ホームページや町広報紙3月号への掲載をした。配布について



ヘルプマークのポスター

問 今後の取り組みについて。

町 ヘルプマークは地域社会で支えあう内容であり、幅広く知れたることで効果的に機能するものであることから、北海道の方針にあわせ普及啓発に努め、申請行為の簡素化など利用しやすい環境を整えていく。行政の取り組みとともに地域全体で支援するためにも関係団体とも連携し協力をいただいている。

特に早い段階から理解を深めるために教育関係者と協議しながら、小中学生等を対象に周知活動を進めていくことで、「三愛運動」の趣旨にもつながることと考えている。

は、10月19日より開始し2月末で6件である。

一般質問

5 中村 仁志 議員
中学生のピロリ菌検査の受診率について 他3件

6 折出 征清 議員
教育施設の跡地の有効利用について

7 立石 巧 議員
鉄北集会所の改築について 他1件

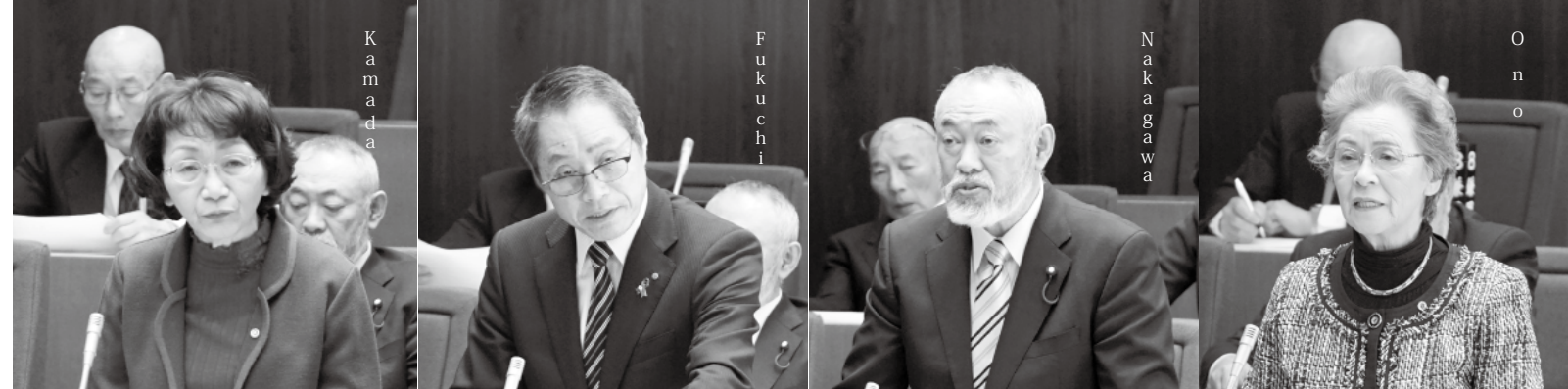
1 小野 キサ 議員
町営住宅の玄関錠交換について 他1件

2 中河 敏史 議員
白糠町における官民所得格差について 他1件

3 福地 裕行 議員
政治姿勢について 他4件

4 鎌田 民子 議員
防災・減災対策の検証と対策について 他2件

一般質問は7名の議員が登壇し、「町営住宅の玄関錠交換について」等19件28項目について質問を行いました。





中河 敏史 議員
Nakagawa toshifumi

官民の所得格差を是正せよ

町 出来る限りの努力をしていく

現在、わが町において公務員所得と民間の所得に大きな格差がある。2016年度のデータでは全道179市町村のうち、格差の大きい順位で9番目とのことである。この格差を今後解消していかねばならないと考えられるが。

間、職員の採用を控えて全体の人員費を抑制したため、職員の平均年齢が押し上げられ、平均給与が高くなっている。

仮に平成15年度から平成21年度まで3名の職員を採用したとして試算すると、平成28年度では平均給与月額で約2万1千円程度、平均年齢で2歳程度低くなり平均年収が42位から88位に下がることになる。

平成8年度から平成28年度

まで職員数で117人、人件費で8億6700万円削減し、さらに平成17年度から5年間独自に4億8300万円削減してきた。民間所得との格差解消について質問議員の参考資料「地域平均年間所得」において、平均所得が246万7460円となっているが年間所得28万円以上の納税者の方を全て対象にして算出するため平均年間所得が低いと思われる。

間格差を縮めるにはどうしたらいいか伺いたかったが、これでは分子と分母の関係になる。仮想とのことだが仮想値は。

平成15年から平成21年まで3名採用したとして、給与は570万8千円、年齢は41.5歳、人数は198名となる。

間格差は全道の9位から22位に下がるが、まだ管内で白糠町の次に格差の大きい釧路町の30位より上であるから本町の格差はいかに大きい。管内自治体の全道における官民格差は179自治体のうち白

糠町9位、釧路町30位、釧路市48位、弟子屈町93位、厚岸町133位、標茶町135位、鶴居村143位、浜中町156位、この結果白糠町はいかに官民格差が大きいのがわかる。職員の給与は地方公務員法第24条3項に職員の給与は、生計費並びに国及び他の地方公共団体の職員並びに民間事業の従事者の給与その他の事象を考慮して決めなければならないとあるが。

間三つの原則があり、一、職務給の原則、二、均衡の原則、三、条例の原則により給与が定められている。類似団体として国が公表しているのは長万部町と松前町。

間地方自治を考えるならば白糠の実態に即す必要があるのでは。課税対象の階層はどのようなになっているか。

間10～100万円の課税対象者が一番多い。

間官民の格差が大きいので是正していかなければ住民の流出がとまらない、それなりの所得を得ようとするなら白糠から出なければならない。本

町では定住者を増やすため様々な施策を行っている。そのなかで所得を増やす施策も考慮しなければならない。そうしなければ人口の流出は止まらない。

格差を是正するには所得を上げなくとも、例えば低所得の方には公共料金を下げるなど様々な方法を行って格差をなくし、一人でも多くの定住者を増やす必要がある。

間公務員の給与を下げて民間を上げるとのことだが公務員については適正と考えている。給与調整し、夫婦で働いている人がいるから所得が低くあらわれている。一緒に働く場所があるということも事実。大事なことは働く場所と雇用。そういう前提にたって行政として出来る限りの努力をしていく。

※中河議員についてはこの他、「中学生の海外研修について」の質問を行いました。



福地 裕行 議員
Fukuchi hiroyuki

ここは私情を抑えて

町 他の行事があるので途中退席した

間先に町内で「鈴木貴子・鈴木宗男新春交礼会」が開催されたが、例年の如く一時しか参席しなかった。私情に駆られ極端に一党一派に偏してはいけない。

間同日は先に町内行事があり中座したが、案内を持参した方に説明し、理解も頂いた。

間毎年のことだ。他方の代議士の時は毎回最後まで居る。まち全体のことを考えて失礼無きようにして頂きたい。

間各々の人間関係や自分自身の都合もある。

農業をおもしろく！

町 問題は人手の確保

間お題目然と並べた蔬菜・紫蘇・薬用植物・ヘンプ・ヤナギの栽培・販売実績は。

間異業種参入した農業法人が、蔬菜栽培を始め4・6ヘクタールに拡大している。アイヌ伝承有用植物は調査結果を踏まえ、試験栽培等を計画。ヘンプは、今後も北海道と連携し取り組むし、ヤナギは、おが粉製造に向けた起業を準

備中である。農業の振興は長い年月を要するが、着実に進めていく。

間世界の潮流は家族農業・小規模農業だが、課題山積のわがまちは見方を変えれば最先進地になり得る。キーワードは、食の安全・安心である。課題が大きいからこそ町長のリーダーシップが求められる。

間北海道は拡大・大型化の傾向にある。問題は人手の確保。

中国語など要らない

町

外国を識ることで
自国を見詰め直す

間町政の三本柱「教育（意識改革）」の成果・検証を質す。

間「ふるさと教育」を基軸にこれまでの10年間は「基盤づくり」、今後は「充実・発展する」期間であり、一定程度成果を上げてきた。白糠高校についても公営塾や独自の教育内容の準備に向け積み上げている。

間ふるさと教育は、果たしてどこまで効果が上がっているか問われるし、中学生の台湾への修学旅行を検討していたとは解せない。世界に冠たる

日本の歴史・伝統・文化を教え込むことが真の国際人をつくる早道だ。

間ふるさと教育に係る認識が違うのかも知れないが、国際理解教育も大事である。

間学習時間が限られた中で何を優先するかだ。小学生からの中国語など全く必要ないし、英語偏重の教育は国を壊す。英語・中国語を話せるだけでは国際人ではない。日本人より高い精神性を持つ国民はいないのだから、真のグローバル化とは、日本が世界に出ていくことだ。

間外国を識ることにより自国を深く見詰め直すことにもなる。

まちの誇り、伊賀さん

町

実績を残す工夫を
検討する

間古い話だが、本町出身の伊賀静雄氏がスピードスケートで世界新記録を樹立するなど輝かしい実績を残したが、顕彰のあり方、またふるさと教育にどのように活かすか。

間昨年の予算特委での質疑で初めて承知し各学校で紹介し

たが、町民への広報や実績を残す工夫などを検討する。

間対応があまりにも遅いが、古いから表に出さないのか。

間柔道の越野選手と同様に実績を記録し保存し伝承するためのコーナー設置を検討する。

負の遺産でもある

町

期待に違わぬよう
全力をつくす

間素晴らしい学校で大きな期待もあるが、棚野町政の負の遺産として末代まで語り継がれる懸念もある。入学児童数と在籍者数は、また災害避難所に指定されているが、要援護者の避難体制の構築も急げ。

間期待に違わぬよう全力をつくす。平成36年度で11名、130名（9学年）。

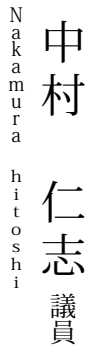
消防庁舎、一考を

町

あの場所は鋭意検
討した結果

間大津波を勘案しても最適な場所ではないが、ヘリポートを設置せよ。

間場所は鋭意検討した結果。ヘリポートの設置を検討する。



町 受診率は 99.17%

出願変更状況時と同様に41名

白糠高校の出願状況は

願者数だった。この後は3月6日に入学試験が行われ、3月16日の合格発表後に2次募集があり、最終選考を経て入学者数が確定する。

まずは2間口の確保を目標に、議会をはじめ町民のご理解とご支援を得ながら、白糠高等学校の魅力化にかかる取り組みを進めており、今後も状況を的確に捉えて対応に努めていきたい。

町
滞納繰越分の収納率は27・2%

奨学金の返済率は

● 国の奨学金を返せず過去5年間の自己破産率が延べ1万5千人になる。厳しい経済状況の中、町の奨学金も7年にわたり返済するが町の実態と返済率について伺う。

● 町の奨学金について、現在、奨学金を返済している方は、現年度分で19名、滞納繰越分で6名となっております。中には経済状況の変化により、返済が滞る方もいる。このような場合には奨学生や保護者の収

町
検討する時期に
きている

「駅舎改修」報道の長期計画については

入の状況に合わせて、柔軟な対応に努めている。

また収納率については、平成29年度は収入予定額が342万9120円のところ収入済額308万1978円で収納率は89・9%。滞納繰越分は、収入予定額が120万992円のところ、収入済額は32万6992円で収納率は27・2%であった。

現在は返済が滞った場合には、返済者の生活実態を考慮した無理のない着実な返済に向け、努力を継続してきている。

「圈白糠町においても利用者が減少している現状で、本町ができる限りの支援策及び早急な利用促進対策を行うべきとの考えが根底にある。

老朽化が進む町営バスターミナルの改築時期もきており駅舎と合わせて合築ができないかとの思いがある。

さらには、公共交通や観光客の拠点となるような人が集い賑わいのある魅力的な駅舎の改修と駅前駐車場や乗降場所の整備、観光案内所の設置等々、駅前整備計画を検討しなければならない時期に来ていると考えている。

改修の財源として寄附型のクラウドファンディングも含めたふるさと納税の活用を資金調達手段の一つとして考えている。

今後、ＪＲ北海道にご理解とご協力を得られるよう鋭意協議をしていきたい。



防災・減災対策、次年度に重視する内容は

町
いっそうの防災意識の啓発、
地域防災力の向上を図る

害の対応など、より多種多様な事態に対しての対策の拡充が必要と認識している。迅速で正確な情報収集に努め、同報系防災無線設備等の整備の研究、「防災教育事業」も充実させ、防災意識の啓発、地域防災力の向上等を次年度以降重視していく。

■女性消防団員の登用の課題とあるが、具体的な考えを問う。

図将来に向けて非常備消防の充実、後方支援や、予消防等の活動において女性の力が必要だということと、平成22年に改正した現在の消防団員の定数等で、総体的に研究、議論が必要との考えから示したものである。

■災害用排水ポンプの老朽化に対しては、町民の安心・安全確保のためにも、すぐにでも新品に取り替えるなどの対応が必要と思う。

■町内8カ所に9台の災害用排水ポンプを設置している。4台の整備を終え、残り5台は平成33年度には整備が完了する予定。今後災害排水ポンプ整備すべてについて計画的に更新を図っていく。

介護職員研修受講の結 果と今後の取り組みは

町
人材確保のため、
町内受講に努める

問 平成29年度は6人の受講終了者となっている。一般と白糠高校生はそれぞれ何人か。

また、終了した人たちの雇用

児童生徒の持ち物重量
化による体の変化は

町
姿勢などの歪みの
症状報告はない

問 「ランドセルが重すぎて体

重の10%を越え、腰痛が増えている」という記事があった。教科書が厚く、大型化したことにより以前に比べて2倍近くの重さになったということもあるという。子どもたちに腰痛、肩こり等の現象はみられるのか、どう把握しているのか。

図教科書の大増量や内容増により、従前よりは重くなっているものもある。ランドセルは軽量化や体に負担をかけない構造化が進んでいる。保健室利用状況調査、内科検診でも症状のある子の報告は多い。

■負担を減らすためにも、習字道具や絵具セットは学校に置くことは出来ないか。また、使用後の手入れは家ですることになっているので持つて帰ってきていると聞か

図学校に置くことが出来るかどうか、今後検討していただくと考えている。筆のすみ等の手入れを教えることは各学校でやっているが、それぞれの学校でどう指導しているかは把握していない。学校によつて方針が違う。



立石 巧
Tateishi Takumi
議員

鉄北集会所の早期改築を

町 町内会等と協議して進める

問 以前定例会で同様の質問をした所、「改修の必要性は十分認識しており、第7次総合計画にも『大規模改修の検討』として位置付けており、財源手当ても含めて考慮したい」との答弁であった。今日までの検討内容を伺う。

答 第7次総合計画では「刺牛集会所」「鉄北集会所」の2施設については、他の大型事業との兼ね合いや財源手当てを含め検討を進めていたところ、「鉄北集会所」は強風による屋根の損壊等が生じたことから、全面葺き替え修繕を行い施設の保全に努めた。

両施設を比較し、塩害等で傷みが激しい「刺牛集会所」を先に行った。今後における改修の可能性については、第8次総合計画において実施を予定している。地域と協議を進め、場所、規模などの内容を詰めたのち決定したいと考えている。現段階では、平成31年度中に整備を完了したい。

町 地域材利用促進の面からも検討する

問 「CLT」は建築業界を変える新素材として注目されている。森林資源の有効活用や環境にも優しく、都市づくりにも最適として、多くの面からも期待されている。建材に不向きな木材でも活用でき、森林の適切な保全に役立つメリットもある。今後町有施設の建設に活用すべきと思うが

「夢の木材」CLTの活用は



老朽化が著しい鉄北集会所



スギのCLTパネル



つくばCLT実験棟

考えを伺う。

問 CLT（クロスラミネティドティンバー）は軽量で強度に優れた面材であり、これまで木造では出来なかった中高層の建築を可能とするなど、木材の需要を飛躍的に拡大させるなど期待がもたれている。平成28年4月に建築基準法に基づくCLT工法を用いた建設が可能となった。今後、CLTの利用を拡大していくには、生産体制の整備や安定供給、コストの低減など総合的に進めていく必要がある。町有施設における活用について

は、地域材の利用促進の面からも、積極的に検討していきたい。

問 建築事例が少ないとの答弁だったが、直近で建築された事例について伺う。また、事例があるとしたら、業界として視察をし、今後の事業に向けて官民連携して加工技術、製造等の取り組みや建設活用の増大が図られるよう取り進めることが大切である。

答 北海道内では、知内町や足寄町で事例がある。



折出 征清 議員
Oride Masashi

庶路中学校等の跡地利用は

町 老朽化した施設等全体を調査

問 庶路中学校は、いよいよ4月から小中一貫校「庶路学園」としてスタートする。子供たちが安心安全で楽しい学校生活を送れることと、本来に嬉しく思っている。

そこで、既存の庶路中学校等の利活用について伺う。

平成28年6月定例会において質問した際、「庶路中学校のグラウンド跡地の活用については、関係機関・スポーツ団体等の意見を聞きながら協議検討する」とのことであつた。

答 だが、現在までの協議内容を伺う。

問 スポーツ団体等との意見交換で、水はけや立地のよさから、老朽化している野球場や未整備のサッカー場として活用を図ることが適切ではないかとの意見をいただいた。

このような意見をもとに、内部協議や関係部局との協議を進めた結果、庶路中学校跡地だけではなく、今後における少子高齢化の状況を踏まえたスポーツ施設のあり方を、

問 調査分析の業務委託内容は、

答 町全体の将来構想の中で順次整備していくことが適正であると考え、そのための調査分析と提案を業務委託することとし、平成30年度予算に計上した。

なお、庶路中学校グラウンドについては、評判の良い有用な施設であることから、校舎解体時を除き、将来構想ができるまでの間、有効活用を図っていききたい。

問 調査分析の業務委託内容は、

答 町全体で7項目。施設の利用状況の把握、維持改修建て替えコストの分析、適正な施設の総量の算出、類似施設の配置状況、住民ニーズ、施設の活用の方針、将来的な施設の配置。

なおこの内容は、昨年5月にスポーツ省から示された「スポーツ施設のストック適正化ガイドライン」を踏まえたものとしている。

問 「老朽化施設を含めて」という事だが、どの施設を指しているのか。

答 耐震化等の工事を行っている



有効活用を図る旧庶路中学校グラウンド

施設もあるが、内部改修まではいたっていない施設もあり、それらを含めて考えている。

問 現時点で考えているおおよその年次計画を伺う。

答 調査を踏まえて施設の配置計画、改修の計画を検討していくので、調査後に年次計画を策定する。

問 庶路幼稚園も解体を予定しているが、用地の有効活用を考えているのか伺う。

答 園特定の利用は考えていないが、庶路小学校や庶路中学校の跡地同様、関係部局と協議をしていきたい。

議会に足を運んでみませんか。

町民みなさんの議会です。

定例会開会前に役場1階ロビーで会議日程及び一般質問の概要を掲示しております。

町のホームページにも議会情報を掲載しております。

<http://www.town.shiranuka.lg.jp/>

産業厚生常任委員会

◆2月19日 社会福祉に関すること

総務文教常任委員会

◆2月21日 教育に関すること
ふるさと納税について

議会運営委員会

◆2月20日 第1回定例会の一般質問について
議員報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について
◆2月27日 第1回定例会の運営について
◆3月 8日 第1回定例会の運営について

広報調査特別委員会

◆4月 6日 議会だより 140 号校正等
◆4月13日 議会だより 140 号校正等

予算審査特別委員会

◆3月12～13日 新年度予算の審査

議員定数等調査特別委員会

◆1月25日 議員定数等について
◆2月23日 議員定数等について
◆4月11日 議員定数等について

全員協議会

◆1月25日 議員報酬における人事院勧告の取り扱いについて
◆2月19日 第7期高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画について
第8次総合計画基本構想・実行計画について
子育て支援策の拡充について



「今号の表紙」



今号の表紙は、3月18日に開催された本町最大のスポーツイベント、「白糠町ロードレース大会」の様子です。庶路学園の写真と迷いましたが、町広報との重複を避けるため、また白糠の春らしさをより感じられるのでこちらを選びました▼2月25日の釧路新聞で本紙の企画が取り上げられるなど、周りからの注目の高まりを感じていました。今号は企画物の記事を休止いたしました。リニューアルから一年が経過し、民意を反映した広報紙であり続けるために、一度立ち止まって見つめ直します。



「あとがき」

○平成30年第1回定例会を終えました。「第8次白糠町総合計画」に基づいてのさらなる「まちづくり」がスタートしました。昨年度に引き続き、子育て支援策の拡充に注目したいと思います。保育料、学校給食費の無料化、出産祝い金の支給について、すべての子どもに拡大されました。貴重な税金が目に見える形で使われることは、どの施策に対しても大事なことでと思います。

○議会だよりの紙面刷新により、他町村の議員からも注目され、「斬新だね」との声をいただきます。だからというわけではありませんが、今年の全道広報コンクールに提出し、専門の先生に評価を受ける予定です。

ちなみに平成元年の広報コンクールで「入選」の表彰を受けた経緯があります。もちろん受賞が目的ではありません。評価の結果を真摯に受けとめ、より一層皆様に親しまれる紙面作りを目指します。率直な御意見をお待ちしております。

(鎌田)

